

CSSのまとめ

コンピュータ基礎実習（上級）

清水 淳紀

CSSとは

- CSS = Cascading Style Sheet
「スタイルシート」あるいは、単に「スタイル」とも呼ばれる。
- HTMLに、見た目のデザインに関する設定を行うための仕組み。
- なるべくHTMLをシンプルにして、デザインは原則CSSで行うべき。

CSSの書き方（基本）

- CSSの基本

```
セレクタ { プロパティ:値; プロパティ:値; ..... }
```

- **セレクタ**： デザインを適用する**範囲**を指定する。
- **プロパティ**： デザインの**種類**を指定する。
- **値**： 具体的な**設定値**を指定する。
- 「プロパティ:値;」のセットは、{ }の範囲内にいくつでも書ける。

(具体例)

```
h1 { color:red; background-color:yellow; }
```

(意味)

h1

HTML中に存在する全ての「**h1**」タグの範囲にデザインを適用する。

color:red;

文字色 (**color**) を赤色 (red) にする。

background-color:yellow;

背景色 (**background-color**) を黄色 (yellow) にする。

CSSをHTML内に記述する方法

- CSSをHTML内に記入するには、3つの方法がある。
 1. 別のCSSファイルに記入したCSSを、HTMLに読み込ませる方法
 2. HTMLの冒頭部分にCSSをまとめて記入する方法
 3. Style属性を使って、CSSを使いたい場所ごとに記入する方法

1

CSSをHTML内に記述する方法 1

別のCSSファイルに設定した内容をHTMLに読み込ませる方法

- CSSだけが記入されたファイルを別途用意し、HTMLの<head>~</head>範囲内に<link>タグを追記して読み込む。

(例) Mystyle.css

```
h1 { color:red; }  
h2 { color:green; }
```

(例) test.html

```
<html>  
<head>  
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="Mystyle.css">  
</head>  
  
<body><h1>はじめに</h1>この内容が、本文です。</body></html>
```

ここに読み込むCSSファイルの名前を記入する

- HTMLには<link>タグを1行追加するだけ。CSS有効化の手続きが簡単。
- HTMLのページ数が増えても、デザインの管理が楽。
- 原則この方法がおすすめ。

CSSファイル

```
h1 { color:red;}
```

複数のページを
まとめてデザイン

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

HTMLファイル

<link> タグを使って
CSSファイルを読み込ませる

CSSファイル

```
h1 { color:green;}
```

CSSの内容を
修正すると、

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

```
<html>  
<body>  
  . . . . .  
</body>  
</html>
```

HTMLファイル

まとめて
修正
できる。

2

CSSをHTML内に記述する方法2

HTMLの冒頭部分にCSSをまとめて記入する方法

- HTML文頭にある<head>タグの範囲内に、<style>タグを使ってCSSを記入する。
(例)

```
<html>
<head>
<style type="text/css">
  h1 { color:red; }
  h2 { color:green; }
</style>
</head>
```

この部分が
CSSの設定

```
<body>
<h1>はじめに</h1>
この内容が、本文です。
</body>
</html>
```

他の部分は
通常のHTML

- このページ内だけにCSSの効果が及ぶ。
- ページごとに特別なルールを決める際に便利。

3

CSSをHTML内に記述する方法 3 Style属性を使う方法

- 任意のHTMLタグに style 属性を追加して、「プロパティ:値;」を直接記入する。

(例)

```
<h1 style="color:red;">これは見出しです。</h1>  
<p style="background-color:gray;">これは、段落です。</p>
```

- CSSを記入したタグの範囲だけに、CSSの効果が及ぶ。
ただし、HTMLの内容が複雑になるデメリットがある。
- セレクタを記入する必要はない。
 - 「プロパティ:値;」を列挙するだけで良い。

CSSの適用範囲

- CSSの効果は、HTMLタグで囲った範囲に適用される。

```
h1 { background-color:blue; color:white; }
```

<h1>見出し1</h1>
これはcssのサンプルです。



見出し1
これはcssのサンプルです。

- あらかじめタグで囲われていない場所をデザインしたい場合は、タグや<div>タグで囲ってから style="..." を記入するとよい。

このキーワードは、重要です。

このキーワードは、重要です。

タグや<div>タグは、単体では何の効果もありません。
「style=""」などと併用することで、cssの効果が及ぶ範囲を決める役割があります。

CSSの特殊な書き方「クラス」

- あるデザインを、様々な個所で使いたい場合には「クラス」を使うと便利。
- クラスの定義方法 (CSS)

```
.クラス名 { プロパティ:値; プロパティ:値; ..... }
```

セレクタにあたる部分に、先頭にドット「.」をつけて、クラス名を決める。
クラス名は好きな名前が良い。(半角英数字にしておくのが無難)
{ }の範囲内に、そのクラス用の設定を記入する。

pinky という名前で新しいクラスを定義する例

```
.pinky { color:pink; background-color:#FFBCC; }
```

クラスの使用例

- osirase という名前のクラスを使う場合

CSS側の設定

```
.osirase { color:purple; }
```

文字の色を紫色にする
osiraseクラス

HTML側の設定

```
<h1 class="osirase">これは、見出しです</h1>  
CSSの<span class="osirase">クラス</span>を呼び出します。
```

osiraseクラスを
いろいろな場所で使う

出力結果

これは、見出しです
CSSのクラスを呼び出します。

osiraseクラスを適用した
部分の文字色が紫色に

「class="クラス名"」とHTMLタグに追記するだけで、好きなタグ範囲に、そのクラスのデザインを何度でも適用できる。

まとめ

- CSSはHTMLにデザインを追加するもの。
- CSSの書き方は簡単

```
セレクタ { プロパティ:値; プロパティ:値; ... }  
h1      { color:red;      background-color:yellow; }
```

- HTMLにCSSを適用するには、3つの方法がある。
 1. **別のCSSファイル**に設定した内容をHTMLに読み込ませる方法
 2. **HTMLの冒頭部分にCSS**をまとめて記入する方法
 3. **Style属性**を使う方法
- 特殊な書き方「クラス」を使うと、あるデザインを好きなタグに対して何度でも適用できる。
- タグで囲われていない範囲をデザインしたい場合は、タグや<div>タグで囲ってから「class="クラス名"」や「style="プロパティ:値; ..."」を使ってデザインする。